



2022年3月期 3Q 決算説明会

2022年2月22日

株式会社ウィルグループ (東証一部 6089)

目次

I .2022年3月期 3Q実績

II .2022年3月期 通期業績予想、配当予想

III .中期経営計画(WILL-being 2023) 重点戦略の進捗

報告されている事業セグメントの会計処理方法について、従前は日本基準に一定の調整を反映した方法を採用していましたが、当社グループが定期的に検討を行うセグメント情報の見直しを行った結果、当第1四半期連結会計期間より、当社グループの会計方針と同一の方法に変更しています。この変更に伴い、前年同期との比較につきましては、変更後の数値で比較しています。

I .2022年3月期 3Q実績

1

1Q、2Qに引き続き、3Qも業績予想を上回って着地し、通期業績予想を再度上方修正。

2

中期経営計画の基本戦略「WORK SHIFT戦略」は、計画を上回って進捗。

3

財務指標は、親会社所有者帰属持分比率の中期経営計画目標：20%を上回って進捗。

2022年3月期 3Q業績ハイライト

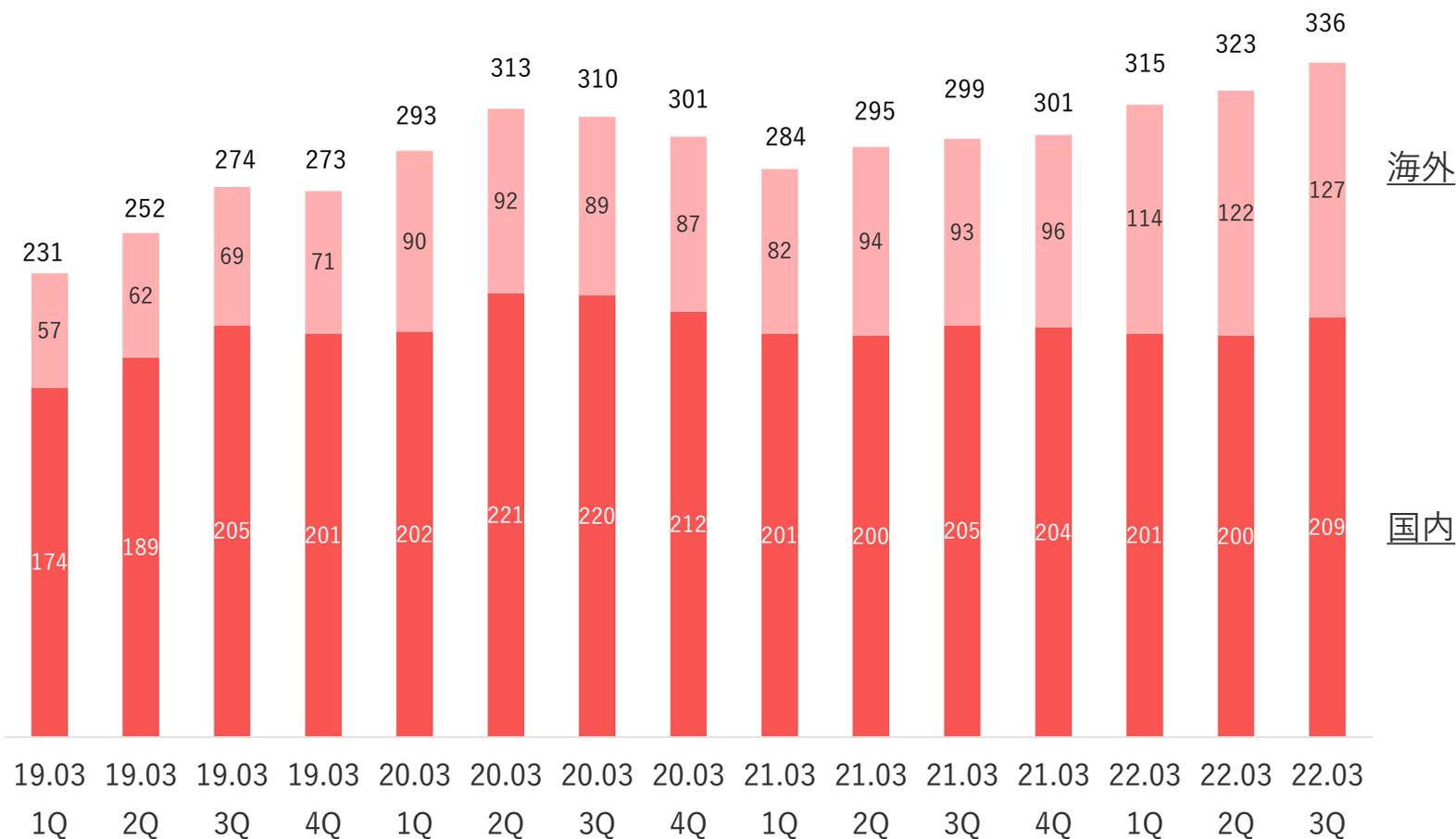
売上収益は、海外WORK事業が牽引し、2桁増収。海外での人材需要は、引き続き堅調に推移。営業利益は、前年同期の一過性利益約9億円が剥落、Perm SHIFT推進にむけた戦略投資領域（建設、介護、スタートアップ人材支援）での先行投資約8億円を実施したものの、人材紹介売上が増加し、売上総利益伸長により増益。

| | 実績 | 前年同期比 |
|--------|---------|------------------|
| 売上収益 | 976.0億円 | +10.7% (+94.6億円) |
| 売上総利益率 | 21.8% | +1.5pt |
| 営業利益 | 41.6億円 | +28.4% (+9.2億円) |

→中期経営計画の基本戦略「WORK SHIFT戦略」は、計画通り進捗。

連結売上収益の四半期推移

(億円)



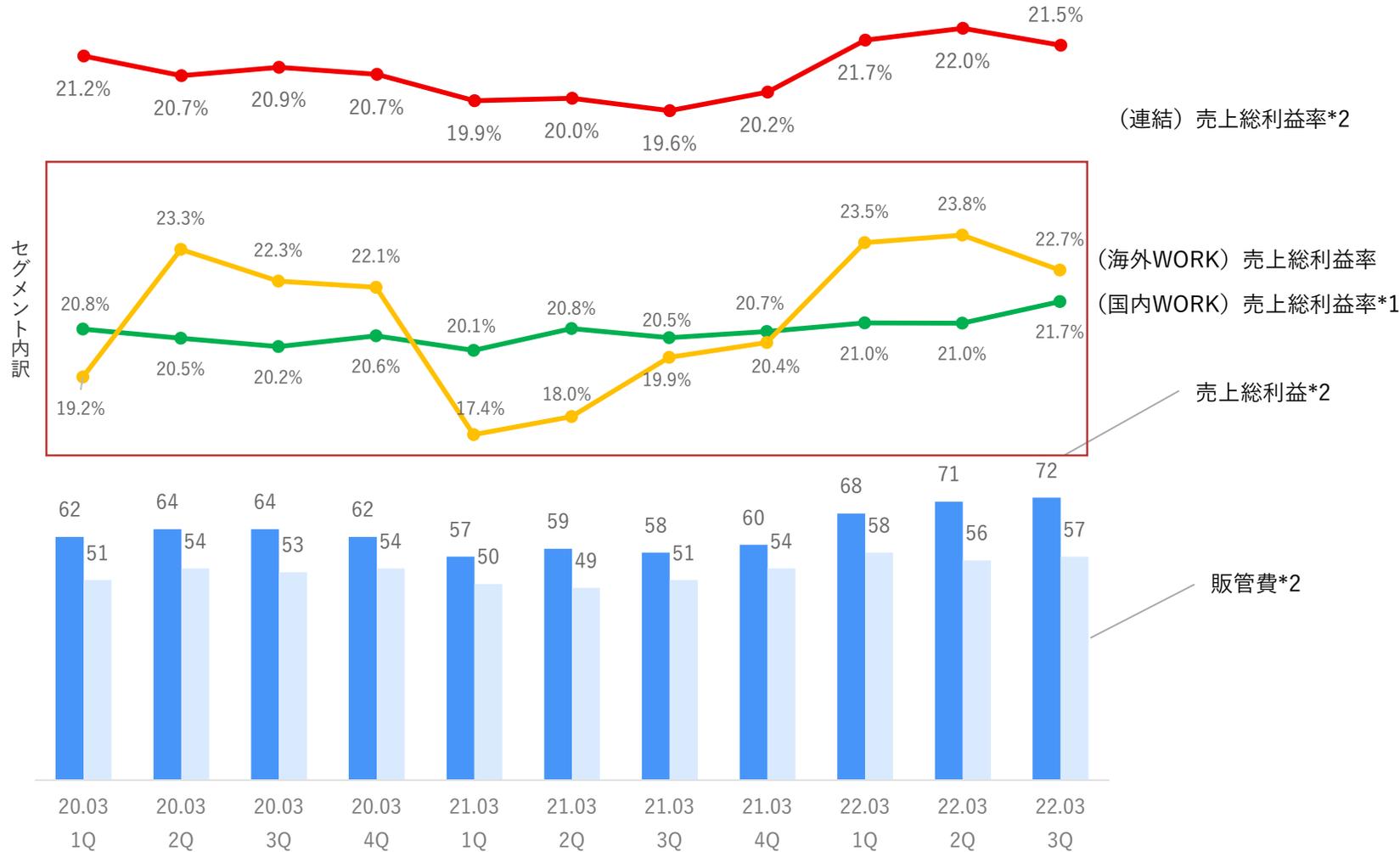
22.3期3Qは、
2Q比：+13億円。
(うち為替影響：+0億円)

海外は、引き続き順調。
また、国内も回復基調。

※21.03期の売上収益は、海外の補助金収入の影響等を除いた調整後の数値です。

売上総利益率の四半期推移

(億円)



Perm SHIFTにより、
連結売上総利益率は、
前年同期と比較して改善。

先行投資は、
3Q計画 : 3.7億円
3Q実績 : 2.6億円

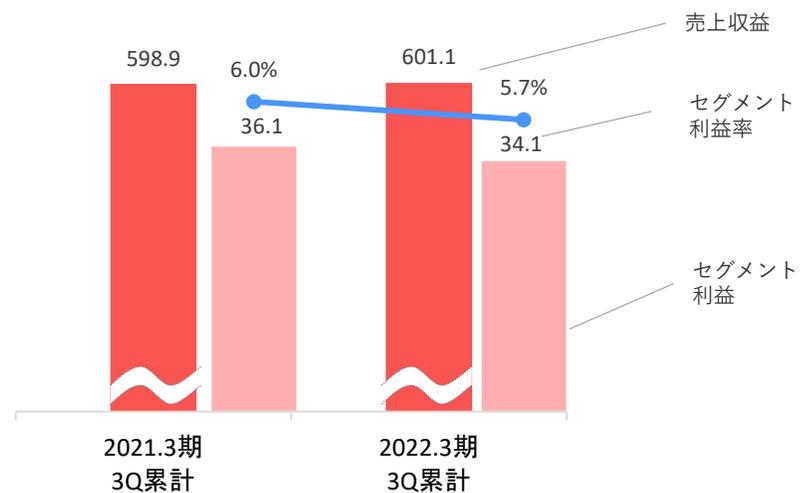
3Q累計計画 : 10.4億円
3Q累計実績 : 7.6億円

*1 セグメント内の連結調整は含んでいません。また、20.03期は従来の会計方針での数値です。
*2 売上総利益、販管費は、海外の補助金収入の影響等を除いた調整後の数値です。

セグメント業績概要

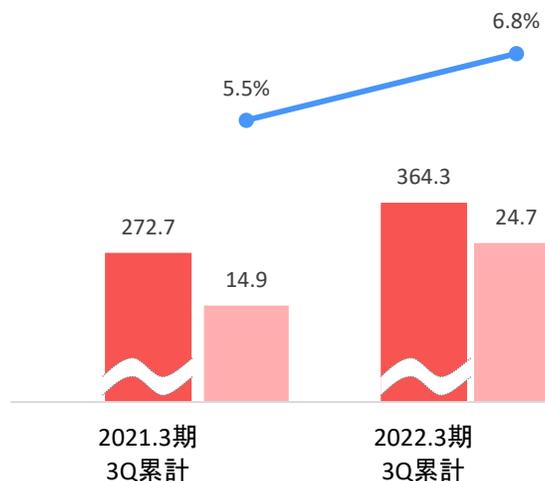
(億円)

国内WORK事業



- ・ファクトリー領域においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、稼働スタッフは減少。
- ・介護紹介、建設、スタートアップ人材支援等への先行投資（7.6億円）実施。

海外WORK事業



- ・豪州、シンガポールとも新型コロナウイルス感染症拡大により、規制強化の措置があったものの、人材需要は堅調に推移し、人材紹介売上が大幅に増加。

その他

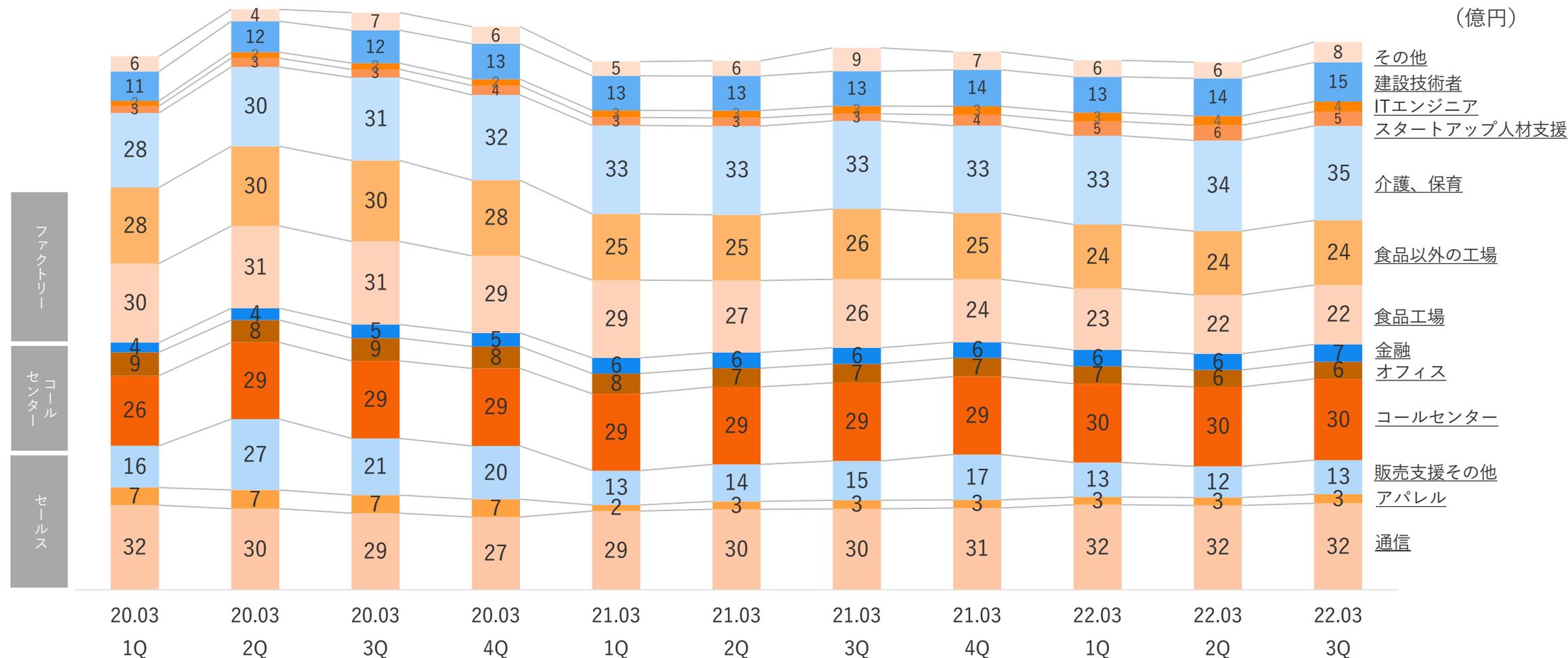


- ・探索領域（外国人ライフサポートサービス「エンポート」等のインバウンドサービス*）先行投資を継続実施。

*2021年5月12日公表「中期経営計画（WILL-being 2023）策定に関するお知らせ」P25ご参照

国内WORK事業（分野別売上の内訳）

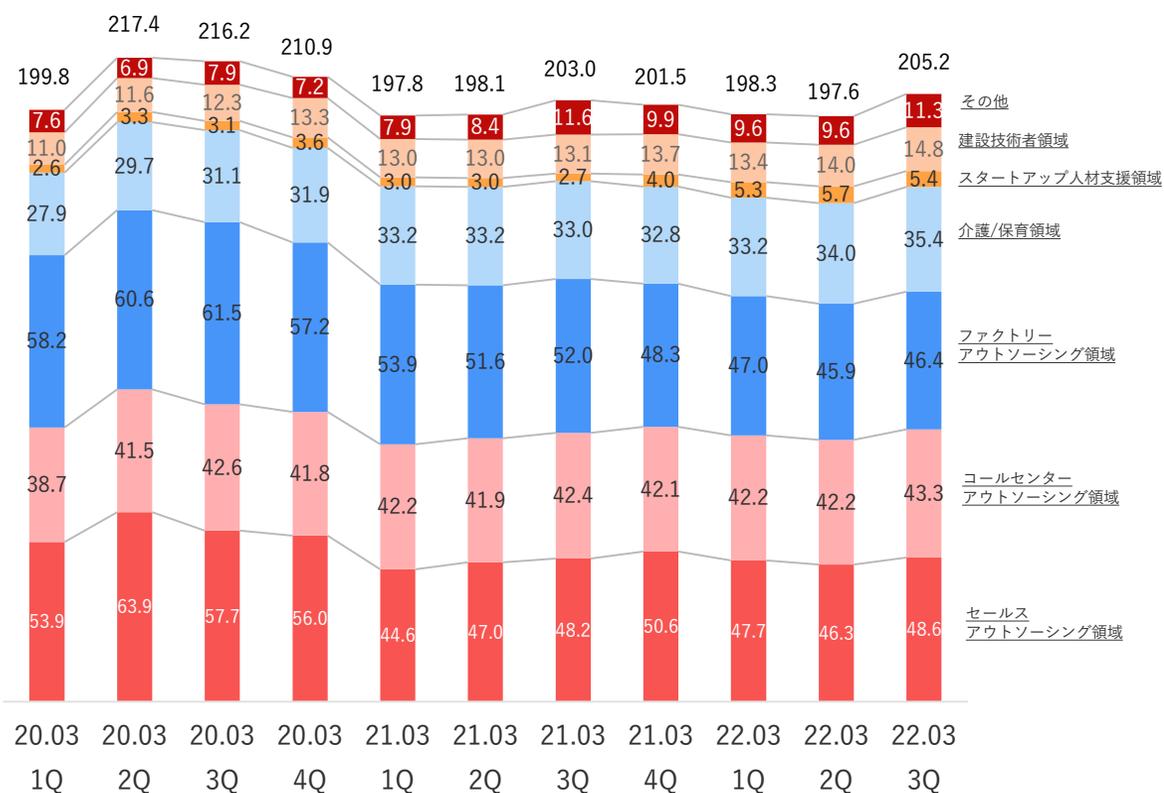
通信分野、コールセンター、介護・保育領域、スタートアップ人材支援領域が堅調に推移。



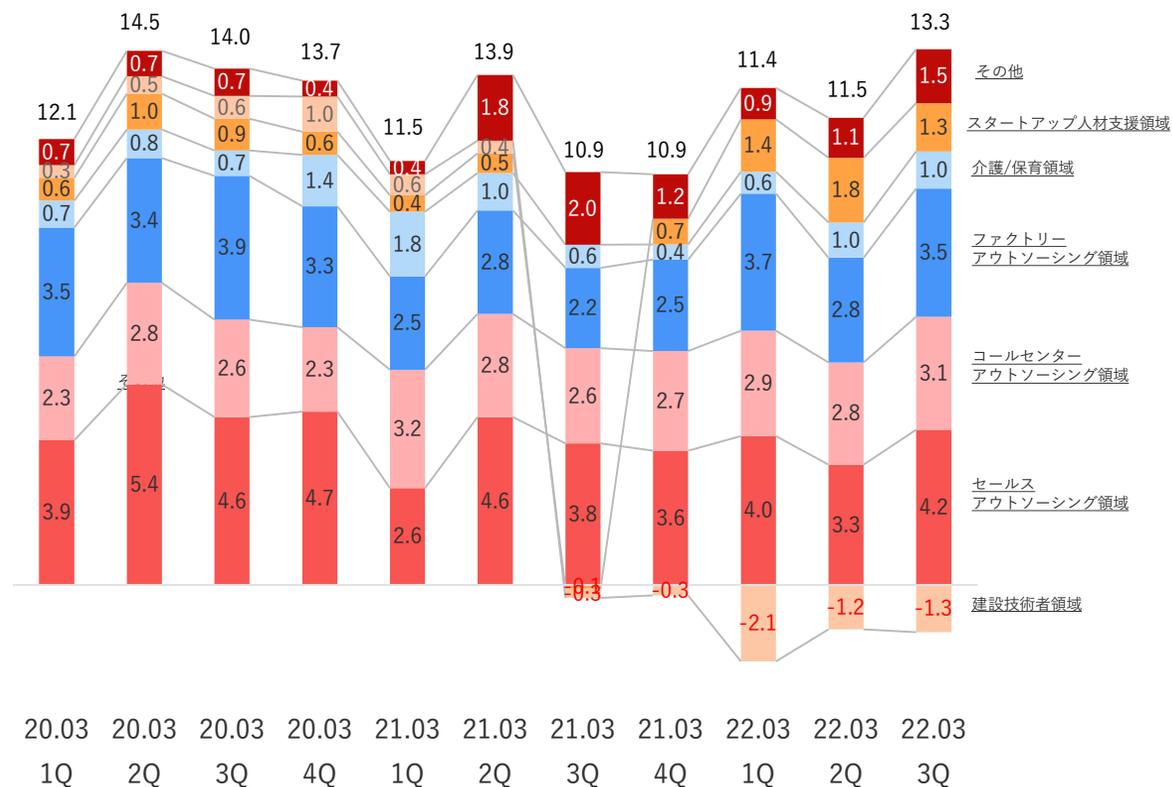
国内WORK事業（領域別売上高、営業利益）

3Qの営業利益については、コロナ前（2020年3月期）と比較して、戦略投資領域での先行投資を行っているものの、概ね2020年3月期3Q水準まで回復。

-領域別売上高（億円）-



-領域別営業利益（億円）-

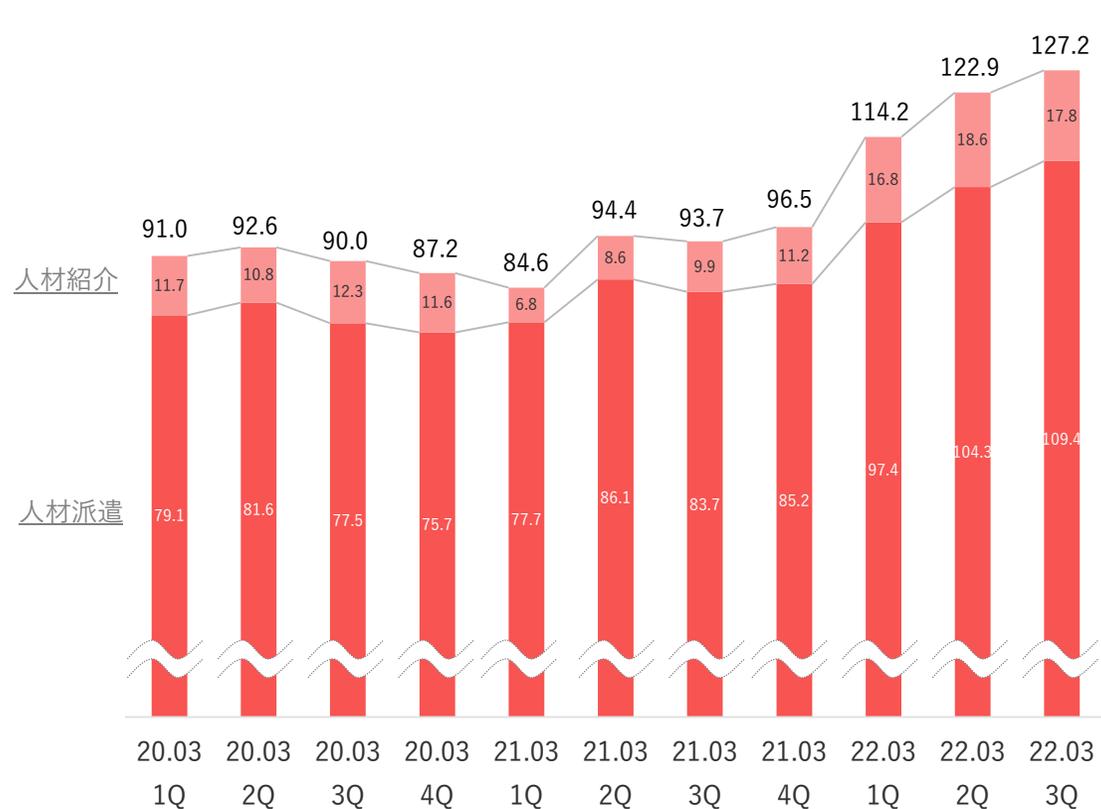


※20.03期の数値は、従来の会計方針の数値に調整を加えた参考値です。
また、セグメント内の連結調整は含んでいません。

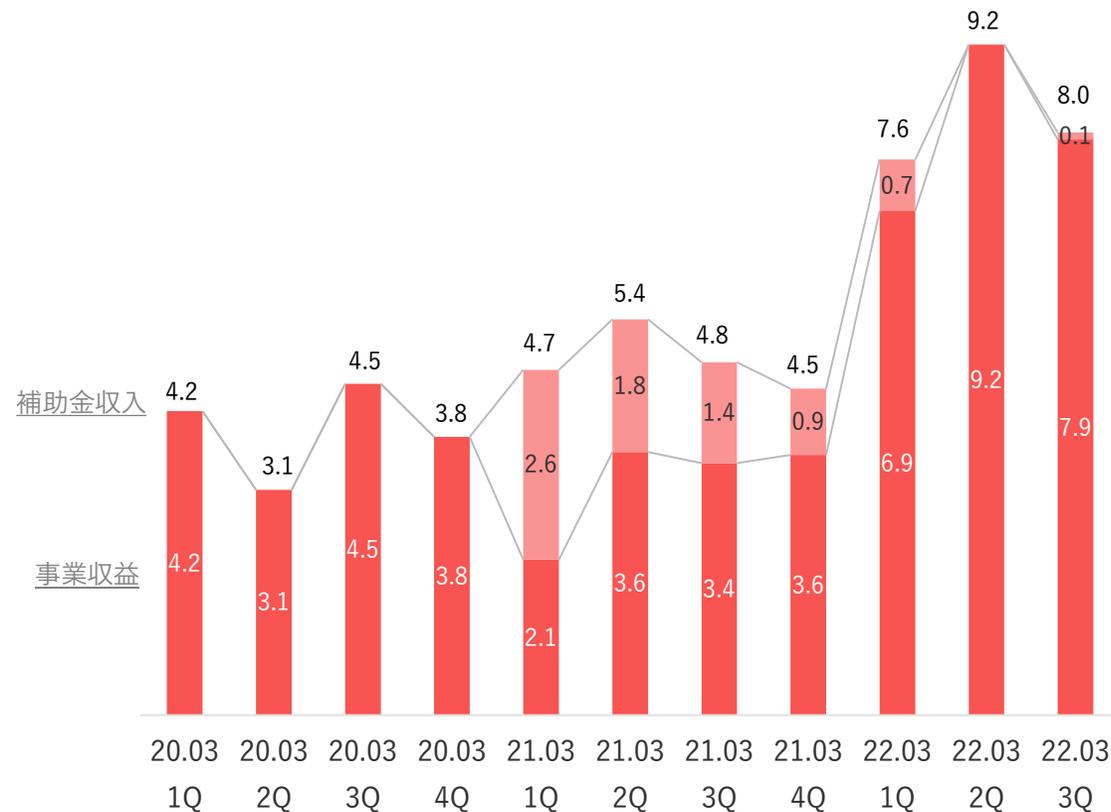
海外WORK事業（契約形態別売上高、営業利益推移）

人材紹介売上は、2Qと比較すると季節要因含め減少するも、持続して高い成長。
 コロナ前（2020年3月期）と比較してもベースは着実にUP。

-契約形態別売上高（億円）-



-営業利益（億円）-



*20.03期の数値は、従来の会計方針の数値に調整を加えた参考値です。

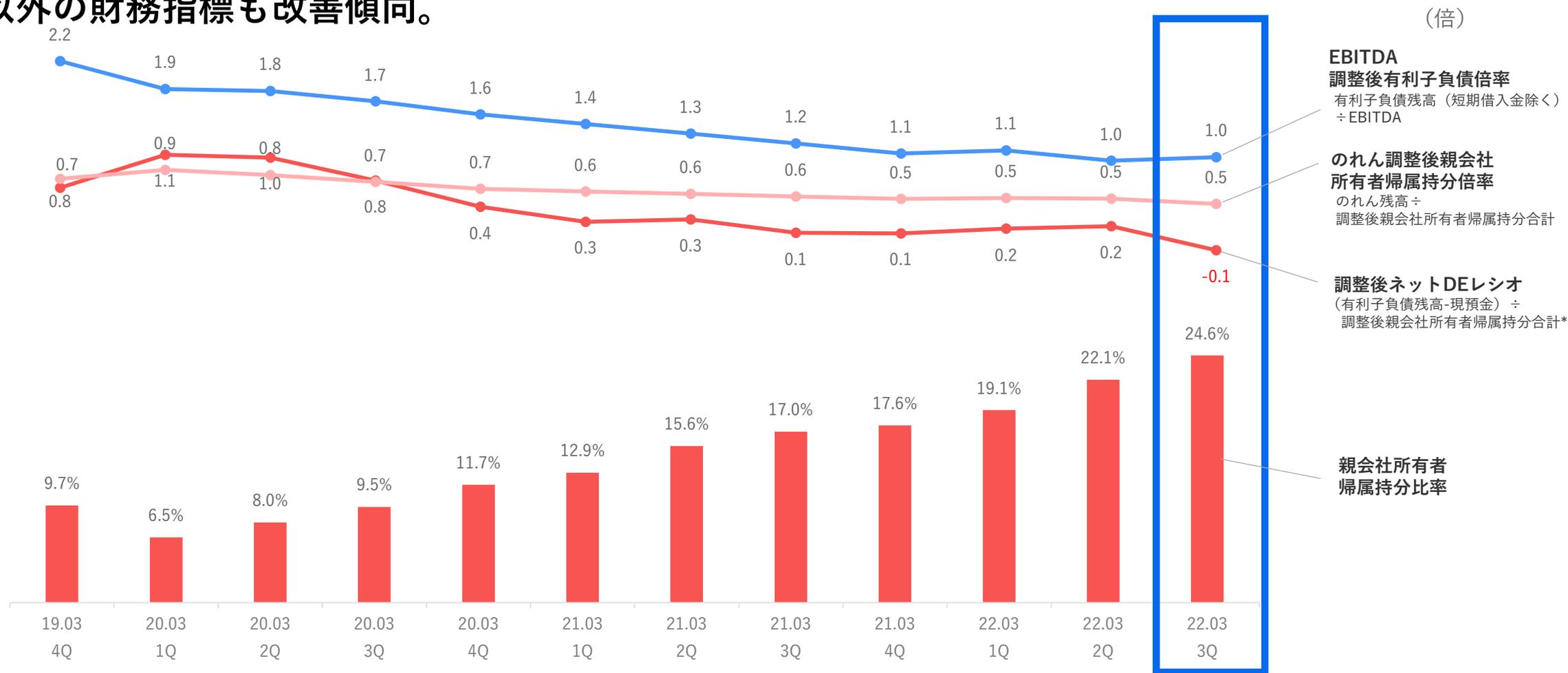
2022年3月期 3Q累計 連結実績

| (億円) | 前年同期 実績 | 実績 | 前年同期比 | |
|-----------------------------|------------------|------------------|--------------------|--------|
| | | | 増減 | 増減率 |
| 売上収益 | 881.3 | 976.0 | +94.6 | +10.7% |
| 売上総利益 (売上総利益率) | 179.1 (20.3%) | 212.9 (21.8%) | +33.8 (+ 1.5pt) | +18.9% |
| 営業利益 (営業利益率) | 32.4 (3.7%) | 41.6 (4.3%) | +9.2 (+ 0.6pt) | +28.4% |
| 税引前利益 | 30.4 | 41.9 | +11.5 | +37.8% |
| 親会社の所有者に 帰属する当期利益 | 18.7 | 26.2 | +7.5 | +39.9% |
| EBITDA (営業利益+減価償却費及び償却費) | 48.0 | 56.4 | +8.4 | +17.5% |

従業員数：5,255人
(前年度末比：+410人)

財務指標

親会社所有者帰属持分比率は、3Qで24.6%。中期経営計画目標：20%を上回って進捗。
それ以外の財務指標も改善傾向。



II.2022年3月期 通期業績予想、配当予想

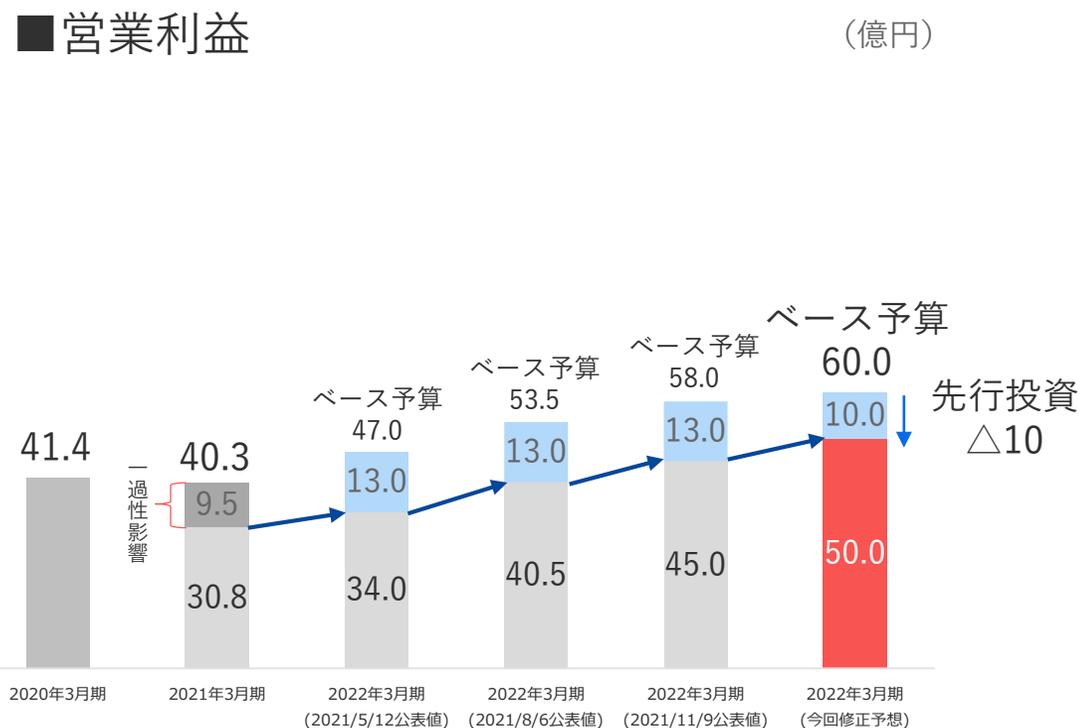
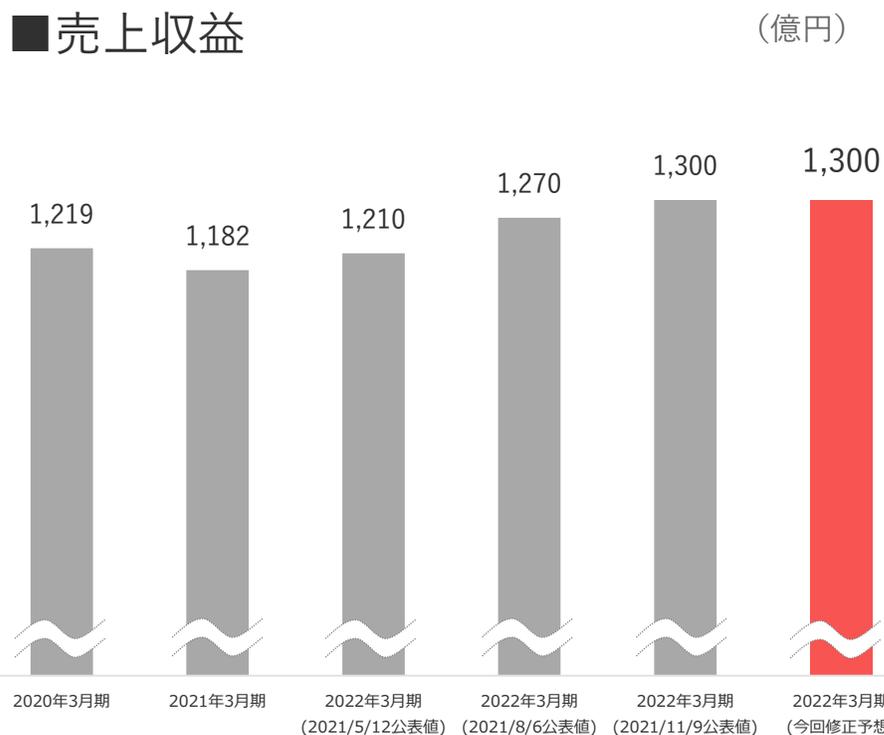
2022年3月期 通期連結業績予想

3Q累計の業績予想上振れを織込み、通期業績予想を再度上方修正。

| (億円) | 2021.3月期 | 2022.3月期 (2021年11月9日公表値) | 修正予想 | 公表予想比 | |
|-------------------|------------------|-----------------------------|------------------|------------------|--------|
| | | | | 増減 | 増減率 |
| 売上収益 | 1,182.4 | 1,300.0 | 1,300.0 | 0.0 | 0.0% |
| うち国内WORK事業 | 800.5 | 811.8 | 810.2 | △1.6 | △0.2% |
| うち海外WORK事業 | 369.2 | 472.0 | 473.9 | +1.9 | +0.4% |
| うちその他 | 12.8 | 16.1 | 15.7 | △0.3 | △.2.1% |
| 売上総利益 (売上総利益率) | 240.5 (20.3%) | 282.2 (21.7%) | 283.9 (21.8%) | +1.7 (+0.1pt) | +0.6% |
| 営業利益 (営業利益率) | 40.3 (3.4%) | 45.0 (3.5%) | 50.0 (3.8%) | +5.0 (0.4pt) | +11.1% |
| うち国内WORK事業 | 47.2 | 45.0 | 45.0 | △0.0 | △0.0% |
| うち海外WORK事業 | 19.4 | 25.1 | 28.5 | +3.3 | +13.3% |
| うちその他 | △3.9 | △3.2 | △3.4 | △0.2 | - |
| うち調整額 | △22.4 | △22.0 | △20.1 | +1.8 | - |
| 親会社の所有者に帰属する当期利益 | 23.6 | 25.1 | 29.8 | +4.7 | +18.7% |
| EBITDA | 62.5 | 62.3 | 70.2 | +7.9 | +12.7% |
| | 前期実績 為替レート | 為替前提 (2021年11月9日公表値) | 為替前提 (修正予想) | 1円変動による影響額/年 | |
| | | | | 売上収益 | 利益 |
| オーストラリアドル | 76円 | 84円 | 84円 | 3.8億円 | 0.1億円 |
| シンガポールドル | 78円 | 82円 | 82円 | 0.9億円 | 0.0億円 |

2022年3月期 修正業績予想の前提

修正予想の4Qは、当初予想の4Qに対し大きな変更なし。
 注力領域への先行投資は、当初計画：13億円に対して、10億円の実績見通し。



2022年3月期 国内WORK事業の領域別業績予想数値

(億円)

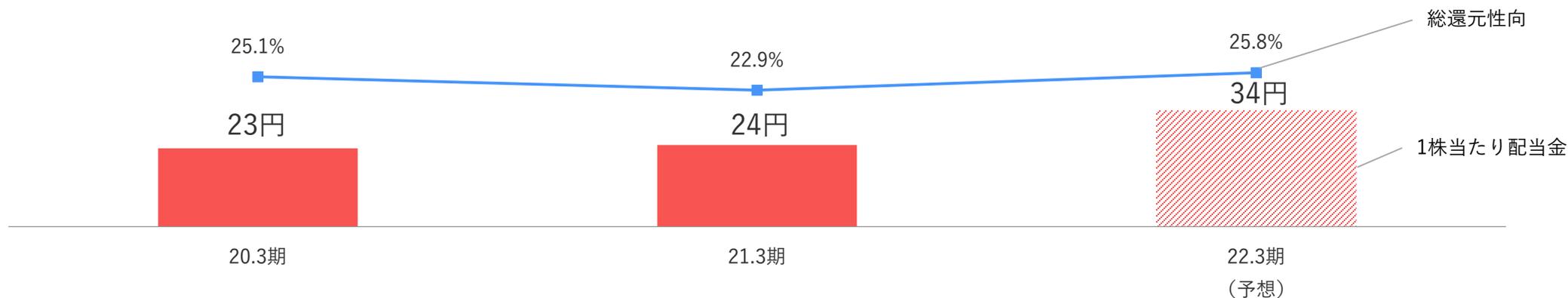
| セグメント | 領域 | 2021.3月期 | 2022.3月期 (2021/11/9公表値) | 2022.3月期 (修正予想) | 2021/11/9公表値 からの増減額 |
|----------|-----------------------|------------------|----------------------------|--------------------|------------------------|
| | | 上段：売上 下段：営業利益 | 上段：売上 下段：営業利益 | 上段：売上 下段：営業利益 | 上段：売上 下段：営業利益 |
| 国内WORK事業 | セールス アウトソーシング領域 | 192.2 | 193.9 | 194.3 | +0.4 |
| | | 16.4 | 16.5 | 15.4 | △1.1 |
| | コールセンター アウトソーシング領域 | 168.6 | 169.7 | 170.5 | +0.8 |
| | | 11.3 | 11.0 | 11.2 | +0.1 |
| | ファクトリー アウトソーシング領域 | 205.8 | 184.0 | 184.4 | +0.4 |
| | | 12.5 | 12.8 | 12.9 | +0.1 |
| | 介護ビジネス支援領域 | 132.1 | 141.0 | 138.0 | △2.9 |
| | | 3.8 | 4.5 | 3.5 | △1.0 |
| | スタートアップ 人材支援領域 | 12.7 | 22.0 | 23.0 | +1.0 |
| | | 1.5 | 4.5 | 6.0 | +1.5 |
| | 建設技術者領域 | 52.7 | 58.0 | 57.8 | △0.2 |
| | | 0.5 | △5.6 | △5.9 | △0.3 |
| | その他 | 36.1 | 43.0 | 41.9 | △1.1 |
| | | 5.2 | 3.9 | 4.1 | +0.2 |

※セグメント内の連結調整は含んでいません。

期首業績予想に対する総還元性向:30%を目安としており、配当予想は据置き。

| | 2021.3月期 | 2022.3月期 配当予想 |
|-------|----------|------------------|
| 期末配当 | 24円/株 | 34円/株 |
| 総還元性向 | 22.9% | 25.8% |

■1株当たり配当金、総還元性向の推移



減損リスクについて

現時点で全ての会社は、減損リスクはない見通し。足もとでは、先行投資を行っているウィルオブ・コンストラクションを除いて、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から回復に向かっている。

(億円)

| | 主要拠点 | 事業内容 | 連結開始 (持分割合) | 投資 残高 *1 | *2 | 2021.3期 3Q累計 | 2022.3期 3Q累計 | 前年同期比 |
|--|--------|---|------------------|----------------|----------|-----------------|-----------------|---------|
|  | 首都圏、東北 | 東北地方を中心に建設技術者派遣・紹介を展開。経験・スキルの高い施工管理技士が多数在籍しており、特に建築土木の大型工事の技術者派遣において優位性を持つ。 | 2018/6 (100%) | 26.1 | 売上 | 39.1 | 42.2 | +8.0% |
| | | | | | 利益 *3 | 0.7 | △4.6 | - |
|  | シンガポール | シンガポールを中心に、香港、日本、米国、中国、オーストラリア及び英国の各国の完全子会社を通じて、HR領域に特化した人材紹介、コンサルティング事業を展開。 | 2019/1 (76%) | 23.8 | 売上 | 8.6 | 14.5 | +68.0% |
| | | | | | 利益 *3 | 2.6 | 5.7 | +119.3% |
|  | ブリスベン | オーストラリアにおいて、政府機関及び大手企業に対して人材紹介及び人材派遣を展開。 | 2019/4 (90%) | 23.7 | 売上 | 51.5 | 73.1 | +42.0% |
| | | | | | 利益 *3 | 5.0 | 10.3 | +108.3% |
|  | メルボルン | オーストラリアにおいて、政府機関、通信企業、エネルギー企業、電化製品製造業等、様々な業界の機関・企業に対し、事務職、コールセンター関連職の人材紹介及び人材派遣を展開。 | 2018/1 (100%) | 15.1 | 売上 | 106.5 | 103.5 | △2.8% |
| | | | | | 利益 *3 | 2.7 | 2.6 | △3.0% |

4 社合計投資残高 : 88億円
連結投資残高 : 106億円

*1 投資残高は、のれん残高と識別可能な無形資産残高の合計です。
*2 連結開示時期を問わず、売上、利益の実績については連結会計期間の4月-12月の実績を記しています。
また、為替影響を除くため、1シンガポールドル=80円、1オーストラリアドル=80円で換算しています。
*3 利益については、識別可能な無形資産の償却額、内部取引、一時的に発生した費用を除いた税引前利益です。



III.中期経営計画（WILL-being 2023） 重点戦略の進捗

中期経営計画（WILL-being 2023）進捗

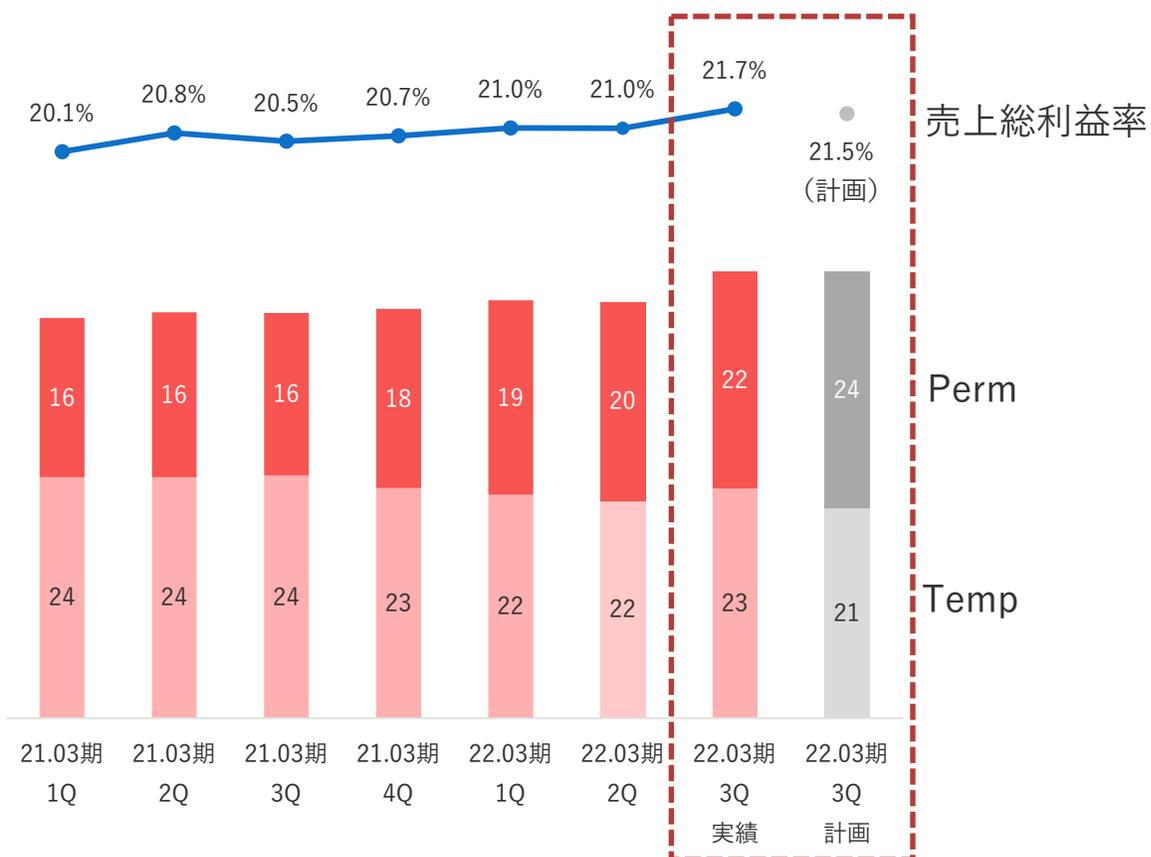
4つの重点戦略は、一部課題はあるものの、概ね計画通り進捗。

| 重点戦略 | 3Qでの進捗 |
|-------------------------|---|
| 戦略Ⅰ ポートフォリオシフトによる収益性の改善 | <ul style="list-style-type: none">・国内の介護領域における人材紹介は、計画を下回る。課題として、注力する紹介予定派遣の認知がまだ低く、オーダー数、採用数とも当初の想定を下回っている状況。来年度に向けて、4Qで拡大できる基盤を構築する。・建設技術者領域の採用は、未経験中途の採用が堅調に推移し、稼働人数は順調に増加。・海外は、1Q、2Qと比較すると前年度からのリバウンド基調は緩やかになったものの、人材紹介が、持続して高い成長で推移。 |
| 戦略Ⅱ デジタルシフトによる生産性の改善 | <ul style="list-style-type: none">・WILLOFスマホアプリの機能の強化（申請のオンライン化等）を継続実施。・2021年7月1日付で、主要子会社のウィルオブ・ワークとウィルオブ・ファクトリーを合併し、営業拠点、管理業務集約。 |
| 戦略Ⅲ 次なる戦略投資領域の探索 | <ul style="list-style-type: none">・外国人労働者サポートサービス（エンポート等）のインバウンドサービスは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による入国制限により計画を下回る。・Tech領域については、主軸事業周辺領域での展開を探索。 |
| 戦略Ⅳ 財務戦略 | <ul style="list-style-type: none">・親会社所有者帰属持分比率は、目標：20.0%に対し、24.6%と目標を上回って進捗。・株主還元目標は、期首業績予想に対する総還元性向30%を目安としているため、配当予想は据置き。なお、業績予想修正後の総還元性向は、25.8%の見込み。 |

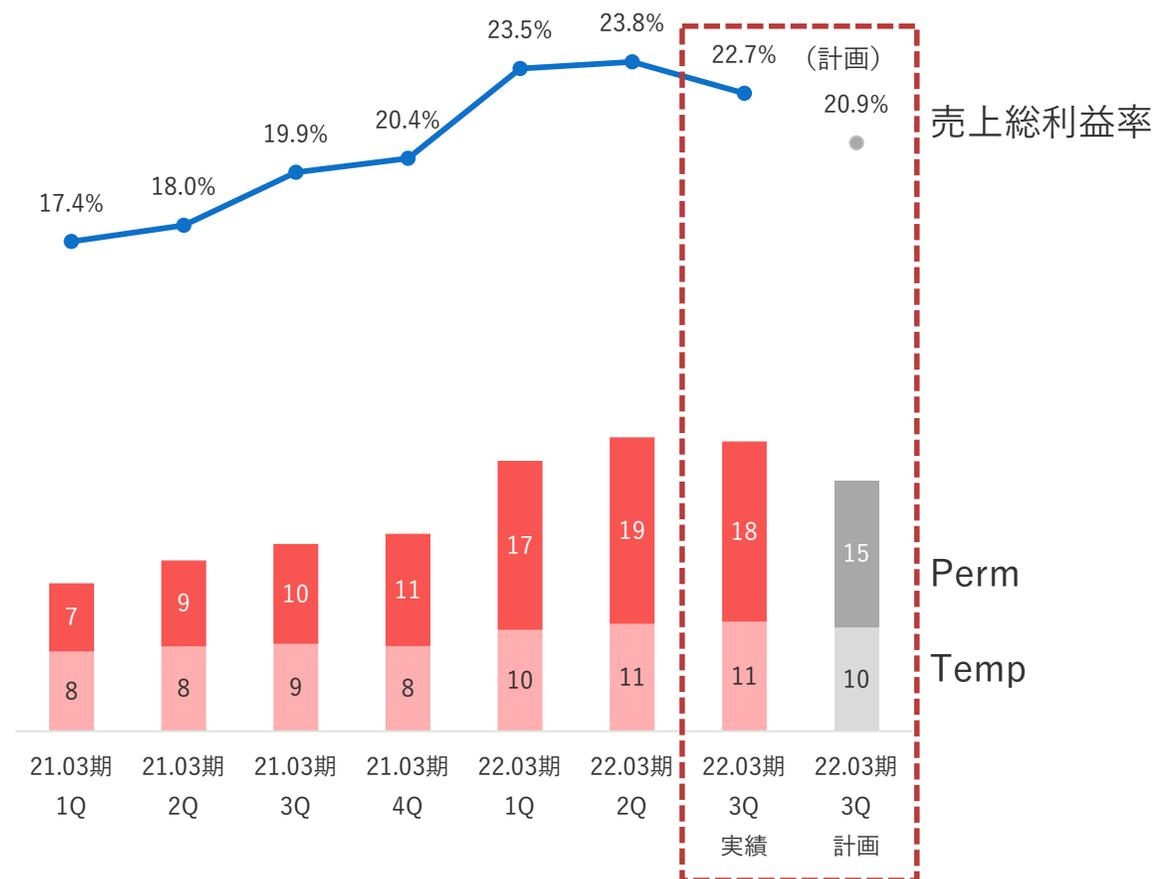
(国内・海外) ポートフォリオシフト進捗

国内WORK事業、海外WORK事業とも、売上総利益率は、3Q計画を上回って推移。
Perm SHIFT推進により売上総利益率は向上。

-国内WORK事業 Temp/Perm別売上総利益※ (億円) -



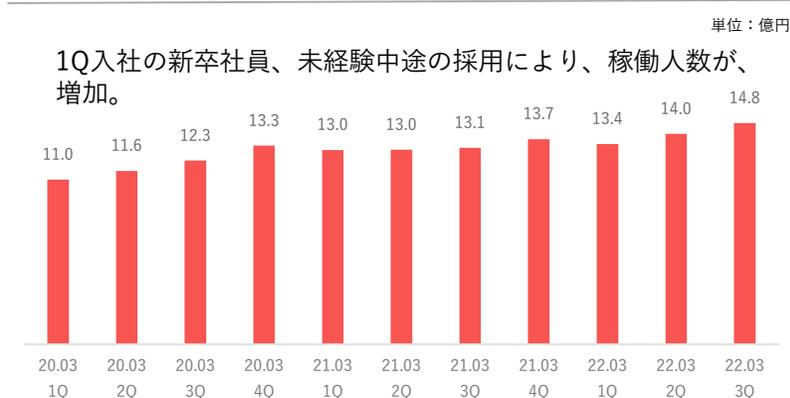
-海外WORK事業 Temp/Perm別売上総利益 (億円) -



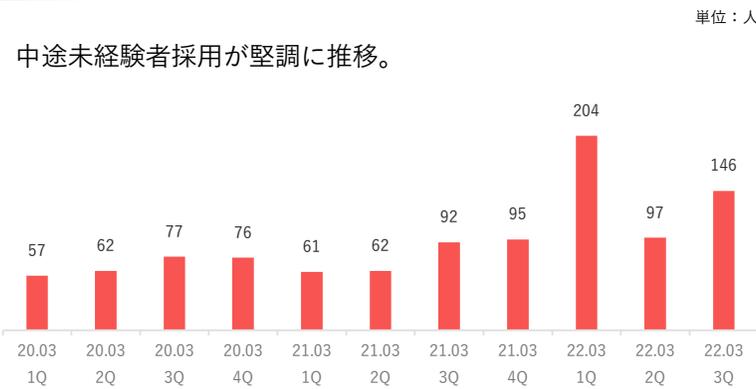
※セグメント内の連結調整は含んでいません。
売上総利益、売上総利益率は、海外の補助金収入の影響等を除いた調整後の数値です。

未経験中途の採用が堅調に推移し、稼働人数は順調に増加。

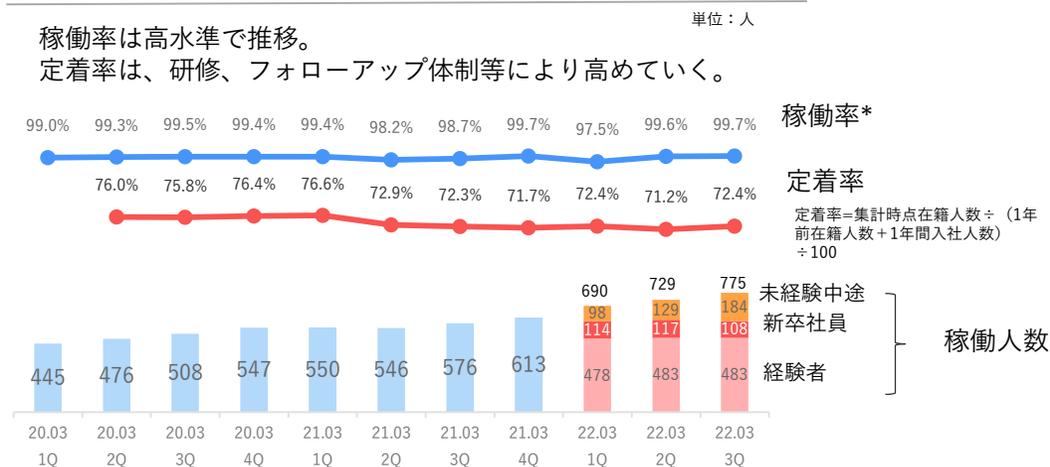
四半期別売上高の推移



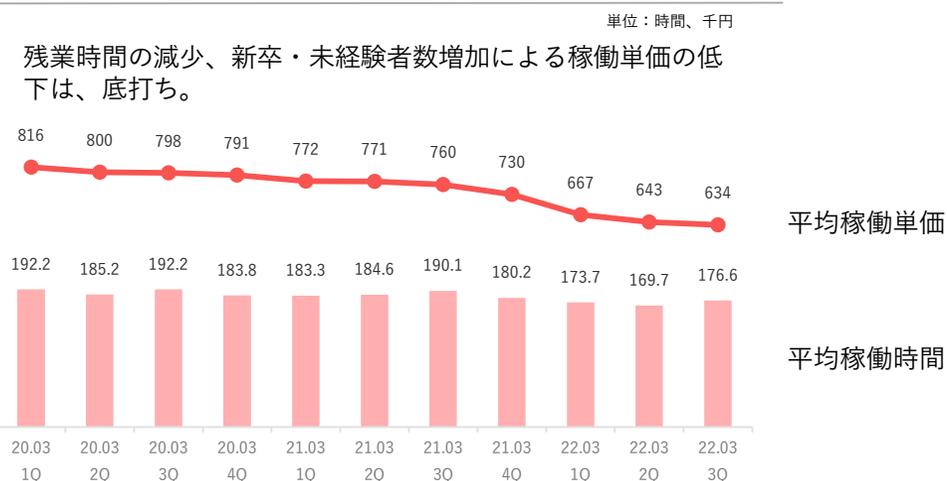
採用人数



稼働人数、稼働率、定着率



(月間) 平均稼働時間、平均稼働単価

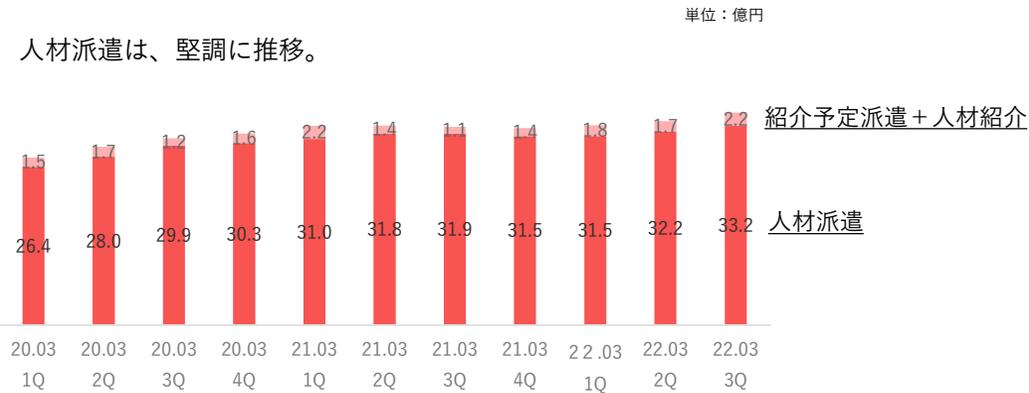


*22.03 1Qの稼働率は、新卒研修期間の影響を除外した2021年6月の稼働率です。研修期間の影響を含めた22.03 1Qでの稼働率は、90.4%になります。

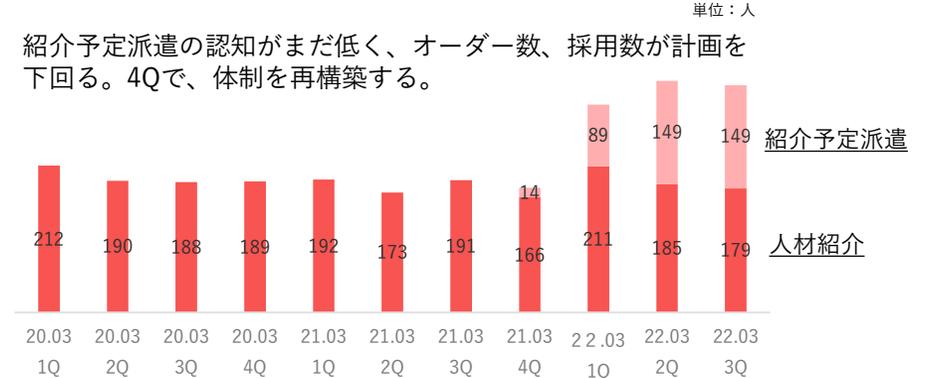
介護領域の進捗

注力している紹介予定派遣が、当初の想定を下回っている状況。
4Qで拡大できる基盤を構築する。

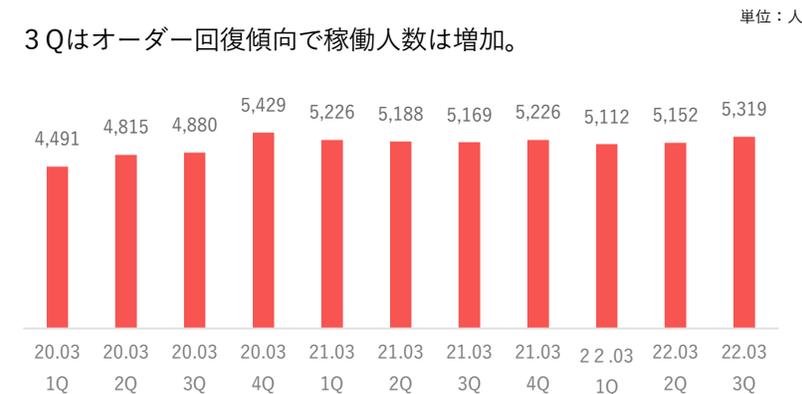
四半期別売上高の推移



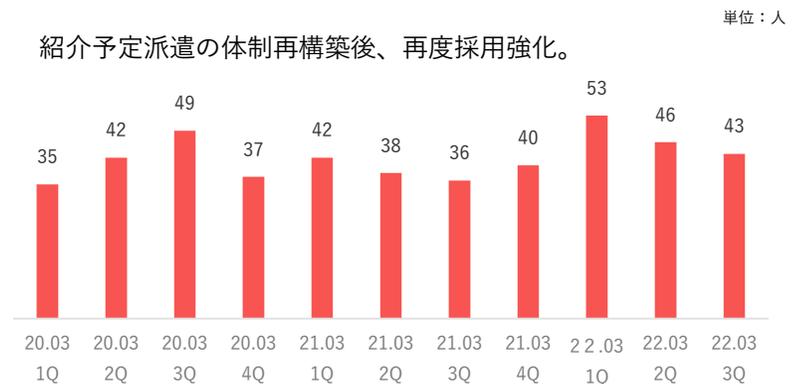
紹介予定派遣及び人材紹介成約人数



派遣稼働人員数



紹介予定派遣及び人材紹介部門社員数





本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

■IRに関するお問い合わせ先

株式会社ウィルグループ 財務部IRグループ

TEL：03-6859-8880